

## 「滋賀の教育大綱（第4期滋賀県教育振興基本計画）」

県教育委員会は、令和6年（2024年）度から令和10年（2028年）度までの5年間における県の教育施策の基本的な方針、目標等を示した「滋賀の教育大綱（第4期滋賀県教育振興基本計画）」を策定しました。

本大綱では、これまで取り組んできた「夢と生きる力」の育成に係る取組を継承しつつ、子どもたちが社会の中心となって活躍する未来社会を見据え、自ら未来を切り拓いていく力を育む教育を目指しています。

そのためにも、一人ひとりの学習者を学習の主役と位置付け、主体的に学び、成長する過程を支援するとともに、「読み解く力」の育成に取り組むこととしています。

また、社会のみんなが、自分や相手、地域社会それぞれに対して愛情をもって取り組むことで、自分を大切に、相手を尊重し、地域に誇りと愛情が持つことができる人づくりを目指しています。

これらの方向性を、基本目標の「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」、サブテーマの『「三方よし」で幸せ育む滋賀の教育』のもと、総合的に施策の推進を図るとしています。（取組は本文参照）



## 「第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン」

昨年度までの教育大綱を受けて、「第Ⅱ期学ぶ力向上滋賀プラン」が5年間遂行されました。「読み解く力」の育成に重点を置いた3つの視点（学びを実感できる授業づくり、学ぶ意欲を引き出す集団づくり、子どものために一丸となって取り組む学校づくり）による「学ぶ力」を向上する取組が進められた結果、以下のような成果と課題が見えてきました。

- 【成果】
- 情報の読み取り、分析・整理
  - 話し合い活動による自分の考えの深まりや広がり
  - 授業で、課題の解決に向け、自分で考え、自ら取り組む
  - 教職員が子ども一人ひとりのよい点を評価
- 【課題】
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着
  - 読書習慣の定着
  - 自分の考えをまとめて記述
  - 主体的に学びに向かう

以上のことを踏まえ、「第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン」（令和6年度～令和10年度）の計画が作成され、子どもたち一人ひとりの「学ぶ力」を高めるための方針が示されています。

概要は、以下のようになっています。学校運営に生かしてください。（詳しくは本文参照）

【目標】「夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学ぶ力を高める」

【3つの視点】視点1 子どもたちが主体の授業づくり

- ◆基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る取組の充実
- ◆「読み解く力」の視点を踏まえた、主体的・対話的で深い学びの実現

視点2 学びを支え合う集団づくり

- ◆生徒指導上の視点を意識した集団づくり
- ◆多様性を認め、思いやりの心を育む道徳教育の推進
- ◆地域に根差した体験活動を通じた、豊かな人間性を育み人間関係を築く取組の充実

視点3 協働して取り組む学校づくり

- ◆「学ぶ力」向上の取組を共通理解・共通実践できる体制づくり
- ◆中学校区を単位とした取組の推進
- ◆多様な学びの場と学校との連携の充実

【主な取組み】「読み解く力」の育成

- ・ICT環境を効果的に活用した学習や学校図書館の活用の充実
- ・校種を越えた幼保小中接続（高等学校や特別支援学校とも関連させて）

## 「滋賀県幼児期教育センター」開設

乳幼児期は、幼稚園、認定こども園、保育所等、様々な施設が保育・教育を担っています。また、子どもの学びと育ちは乳幼児期に始まり、小学校へとつながっています。

本県における幼児教育および幼保小接続の更なる充実を、施設類型の違いを越えて一体的に推進するため、「滋賀県幼児教育振興基本方針」が策定されました。その方針に基づいた保育・教育が各幼児教育施設や小学校で推進されるよう、その拠点として、滋賀県幼児期教育センターが、県教育委員会事務局幼小中教育課内に4月から開設されました。

### 【事業内容】

- ・各種研修の企画・運営
- ・県幼児教育アドバイザー訪問支援事業
- ・幼保小接続関連事業の推進
- ・市町・各幼児教育施設との連携

保育園、こども園、幼稚園だけでなく、小学校も幼保小接続関連事業の窓口となるので、役立てることができます。

「幼保小架け橋プログラム」は、協力園校で（滋賀県は彦根市立城東小学校区）で文部科学省委託事業として進められていますが、どの小学校区の園校でも、架け橋プログラムは、今後考えていかなければいけない課題となるでしょう。

5歳児の年度末と1年生の5月までの短期接続ではなく、0歳から7歳までを考えることが必要です。（詳細はリーフレットを参照）



リーフレット

## おすすめの1冊

探究的な学びの要である「生活・総合」の授業を考えることで、「深い学び」につながる授業づくりができます。単元の見直しと共に教材研究を！どんな力をつけるのか。

### 『探究的な学びを実現する

### 「生活・総合」の新しい授業づくり』

監 田村 学 監 齋藤博伸  
出版社 小学館



「生活・総合」の授業改善のヒントが満載！

未知の時代を切り拓く力を育む学びとして、いま社会で求められている「探究的な学び」。その中心を担う生活科と総合的な学習の時間の授業づくりのポイントとプロセスを、オールカラーで豊富な写真・図版とともに紹介します。

第1章では、「子供と対象とのつながり」「子供同士のつながり」「本物とのつながり」など、「10のつながり」を通して作り上げる生活科・総合的な学習の時間の授業イメージを分かりやすく解説しています。

また、第2章では、元文部科学省視学官と現文部科学省の教科調査官の指導による、「探究」をめざした質の高い授業実践例を、単元計画表や年間計画表、ICTの活用法と併せて多数紹介しています。

2023年6月開催の「日本生活科・総合的な学習教育学会」の第32回全国大会の開催地である、神奈川県の小学校の小1から小6までの先進的な授業を多数紹介しており、明日からの授業改善のヒントが満載の1冊です。